

No. 105

泉南走ろう会

先づ 泉南スポーツ社
連絡先 0724(83)4653

花の万博記念「トライアングル」国際大会に
参加して思う 雑感

会長 透健三

五月三日から五日までのゴールデンウィークに国
際的なトライアングル大会が開催されました。
なかには盛大である。栗野源三、細井さん、透
参加する。三日から五日まで歩く、面白いが、
この大会は雨である。私は参加申込みと同時に
に当日は多分雨だろうと服装持物を雨に
揃える。そして体調も雨に備える。それがため
三月から四月まで雨の中を歩く、走るのトレーニング
カを行う。人から見れば、あいつはななわり者だと
思われたでしょう。(陰の声、思わなく、今ま
で、さんざん見ている。変わり者だと今更人は何
を言うか。これは家内の声である。)

さて、この大会で色々なことを体験し、色々な
思い出がありますが、余りくどくと走ろう会
の機関紙に書く大会のことをのべるとは、本
来でありませぬので、特に感じた雑感だけ
をうべてみたい。参加者は定員が切れてお
りませんが、主催者の発表により、ますます
そして世界十ヶ国から参加とのことです。

幼児から九エオの老人まで、日本各地北海道
から九州までの参加です。驚いたことに、私
も含めて、六十才以上のじいさんばあさんの多い
ことです。これはびびくりです。しかし、私に言
わすれば、どうつくじい、どうつくばあです。
何故ならば、歩くのは早い、これがいいことだ
が、少しでも少しでも前の人との間隔が空
くと、割込んでくる。根性あるだ。皆が今
をさしている中で、実に歩きぬく、それでも
ぐいぐいと前へ前へと歩く。服装は歩くの
にふさわしくない。靴もいろいろ、地下足袋あ
り、登山靴あり、ゴム草履あり。それなのに、
よくも歩くものかと思う。長年の人生をこれ
で頑固に歩んでいこう。感心だ。俗に言う
へんこつです。それ等の人は足は豆だらけ、
それでも三日間、雨の中、よぎ歩いたものだと思
う。参加者が全部が全部こんななけたら、息
を吐き出しているのではないが、特に、靴等の人が目
につきました。今日の歩く大会、靴下、靴は決
めずだ、たと思ひます。私は一月前から泉南
スポーツ社にて、厚いの、薄いの、のびりの、ちぢむの
と、注文(文包)を色々な、そして選んだ、厚目
の靴下、そして靴、これを履きながら、これが
良かったと思ひます。なんと驚くなら、私は
ニトとも
トップ集
団で歩
きました
それも、



大会役員に、私より前に行かないようにと、
何回も注意を受ける始末です。(この歩
き方、余りマナーが良くありません。自分で
はわかっておりますが、何故こんなことを
私にしたか、後日うべてみたいと思ひま
す。雨で大変でした。そうかもしい
い。しかし、私は雨の中、難事を克服した。
充実感が、後のビールを美味しくしました。
磯公があれは、皆さん歩きましよう。



牧野源三

” 思い出したこと ”
三月程前であつた。うか、新聞のフ
ラムにマラソン談義が載っていた。その冒頭
に作家の曾野綾子さんの言葉が引用され
ていた。
”夫婿で流行に乗ってマラソンを始めた。
あれは笑に醜悪な運動であつて、私な
どはゴリラの如き、顔になり……。(曾野
綾子著『ほんとうの私』)
コラムのマラソン談義はなかなか味のある
ものであつたが、それ以上に私の興味は引
用の方にあつた。オッ、あの先生もかそ
は走っておられたか。こけいな表現はど

な脈絡から出てきたらどうするか。数日後、
 浪南市立図書館に行った折、もとの本「マラソン」
 ほんとうの語を書架から引き出して対応す
 る章を読んでみた。期待からすれば、いささか
 がかりしなごもながら、流行に付和雷同
 することはしばしば誤りを犯すことになると
 いうのが、話の主題で、お目当てのマラソンは
 彼女の自戒的な体験の一つとして、引き合い
 に出されていたにすぎなかつたからである。
 しかし、同時に、的を射るのもと同調し
 たり、また気の毒に思ったりもした。

このあたりの事情をいえばこうである。老
 いの健康を考えて、流行のマラソンをした。
 こと運動に関しては、自分は創造的なもの
 ジョギングを働かせることに不得手であ
 ったから、ただしんだけであつた。果して、マ
 ラソンが健康によいかどうかは分からな
 い。因果関係は定かではなかつたが、自分は肝臓病
 を患ってしまった。

意図に反して話しは暗くなってきたので、そ
 こから抜け出よう。幸い、私達はまがりな
 りにも走り回っている。それは、健康を強
 く意識するよりも、無理をしない程度に
 ずぼらにやせたいせいかもしれない。それ以上
 に、明示的に言葉で表現することが不得手
 なだけで、イメージマラソンを創造的に働
 かせながら走っているのかもわからない。会長の
 語録を思い起こしてみれば、その薫陶のも
 とで走っている私達はあつたさうなうらやま

のだな、と思わずにはいられない。
 要は「感性をああいにして働かせて、情緒豊
 かに走る」ことである。これは精神衛生上ま
 ぶるいい。もっとも会長は欲張りだから、これ
 に加えて、「顔は意識しなくともよいが、身
 心は意識せよ」とおっしゃられるだろうが、

「ジョギング・コーナー」



「駅伝」と掛けて、何と解く。
 「朝の長便所」と解く。
 心は「周りからせかされる」。

「スマートなランナー」と掛けて、……。
 「丸っこい人」と解く。
 心は「ほそい(細井さん)」。

「石橋さん、毎日走る」と掛けて、……。
 「フーテンの寅が、戸を叩く」と解く。
 心は「車(轟)ですが」。

続いて、川柳を(小豆島オリーブマラソンに参
 加する人々を意識して)。

足うなり 順風満帆 といえる今
 フルよりも ハーフハーフと しんどそう
 オリーブの 備えは走より ほうれん草

【ポパイ】

「浪南走ろう会」に入会するまで

岡田盛助

先日、会合の後家の横で草刈をして、新
 に改野さんがいらぬ、浪南走ろう会の原稿を
 書いてもらえませんかとお頼みされて、ハイハイと
 返事はしたものの、何を言ってもよいやら、も
 とと文を書くことがいかに、この原稿を書く
 のも一日中かかってしまった。その割には中味
 もなにもない記事、皆さんどうもで二読願
 います。またこれが最初で最後であることを願
 いつつ、

まずは、私がジョギングを初めたのが「昨年秋
 じく、実家である和歌山(約20km)まで何の気な
 くに走ってみようと思いつき走ってみれば、自分
 自分でも驚く二時間二分(これは自分かぞに
 思ったこと)にやれば、いかにしてフルマラソン
 も三時間半くらいで先走できるのでは、との
 思いで初めたのが最初、そして次に出場でき
 るフルマラソンと言えは、あの有名なABC
 孫山マラソンと決め、練習を開始。しかし、ジョ
 ギングについては、またこの知識も何も、素人
 でたどるだけ。コースとしては、新家から
 山中溪までの19kmと長滝駅の10km、それに、
 新家駅が、これを暇な時間に合わせそ
 の練習。しかし、これは素人、無理かたつた
 のか? (本人はそんな気はしていませんが) 走
 り方が悪かったのが、昨年十一月頃から足を
 痛め、練習も休みがち、このままでは孫山

に行けなくなるのではと、さうさく病変へ。夫生の言うには「あまり無理すると、骨折するよ。走るなら芝生の様な上を走りなさい。」そんな所ある訳がない。他に練習を続けられる様にすれば、と聞くと靴底の厚いものご無理しない様に言われ、さうさく靴を買いに泉南スポーツへ。そこで石橋さんから、泉南走ろう会のことを聞き、共に走りませんかとの進められ、入会にいったと言ふ訳である。

しかし、今では会合に出席し、皆んなと共に走るのを楽しみにして、今日このごろです。そして今は篠山を何とか完走でき、少しは自信もできました。しかしタイムでは目標の三分を切る事が出来ず、来季こそはと、ひそかに心に誓い、再スタートしています。でも、まだ会員の方と共に大会に参加したことがないので、機会があれば是非参加したいと思っています。お五り走る場所は遠いですが健闘をお祈りします。最後になりましたが、会員の皆さん、マラソンと同じく長いお付き合いをようよくお願いします。



お知らせ

一、例会日 五月二十七日、休会とします。

理由 小豆島オリオンマラソン、また、

オニ回美浜五木マラソン等に
会員多数参加のため

一、六月例会日 六月十日、午前九時(雨決行)
(第三月曜日) 集合場所 今回は新築種河神社
社とします。

体育館ではありません。
せん。お間違えのない
ように。

理由

新緑の山々を見ながら、ゆっくりと走りたと思います。かつ、荷物は神社に放置しますので貴重品は持って来ないようにして下さい。

一、コース

種河神社——高倉林道入口
——みかん畑——青少年の森入口
——別所——上之郷神社——
種河神社
約十五キロ、上り坂あり、下り坂あり、ゆっくりのんびり走りましょう。

一、案件

六月才四日曜(六月二十四日) 例会日を六月二十三日から加太国民宿舎にての合宿トレーニングについて。

六月三日(日)阿蘇カルデラ、スーパーマラソン100キロに栗野原さん挑戦。

七月二十五日富士登山競走参加予定。

頂上コース真鍋さん
五層コース遠(軍令制限の
ため)

一、ニース

